

陳 情 文 書 表 (1 7 - 3 - その 2)

- 1 受理番号 陳情第6号 平成29年8月23日受理
- 2 件 名 軍司家より君津市に寄贈された新井白石直筆の書作品ほか1点を本市の指定文化財とすることを願う陳情書
- 3 陳 情 者 住 所 君津市君津台1-3-3
氏 名 新井白石研究者 坂井 昭

4 趣 旨

本市の久留里地区は、「新井白石ゆかりの地」として市内外に広く知られつつあることをご存じのことと思います。とくに平成22年に「久留里地区と新井白石の『折たく柴の記』を愛する会」により、久留里市場地区に（仮称）新井白石記念館の設立を願う13,000名以上の署名簿の収集活動、その署名簿と同趣旨の陳情書の本市議会への提出と議会での採択などを通じて広く知られるようになりました。翌平成23年度から6年間は、「（仮称）新井白石記念館の設立を応援する会」が、本市から助成金をいただきながら、同24年2月に『君津市久留里発 新井白石の人と魅力』（1,300部発行）を、同26年3月に『君津から贈る 新井白石古詩集』（700部発行）を、同28年3月に『書物への愛 桜田御文庫と新井白石』（1,000部発行）を刊行し、一層の理解が深まったものと思われます。その過程の同26年9月には同会から本市議会に対し、「君津市が白岡市と『友好親善都市協定』を結び、心温まる交流が続けられることを願う請願書」を提出し、議員全員による採択をいただきました。本平成29年2月10日には新井白石の生誕360年という記念すべき日に、本市議会と埼玉県白岡市議会とが、新井白石ゆかりの地として友好交流協定を結ぶという、うれしいできごとがありました。

そして、この8月22日（火）には、東京都稲城市にお住まいの軍司信一氏より、本市に新井白石直筆の漢詩の書かれた書作品（掛け軸）が寄贈されました。同氏は新井白石の義理の兄で、承応元年（1652）2月8日に久留里藩士から相馬中村藩士となった軍司正信（1627～1703）のご子孫に当たられます。同氏は昨平成28年5月4日に久留里城址資料館を訪れ、家蔵される書作品の真・贋の判定をわたしに頼みたい旨の話を託されました。わたしはその依頼を快く引き受け、今日に至るまでの1年以上の間、福島県相馬市をはじめ山形県、宮城県、茨城県、東京都など、掛け軸に書かれた漢詩に関係したと思われる図書館や博物館、寺院、神社、個人宅を訪問し、文献調査や聞き取り調査を重ねて多くの情報を得、当該の書作品が新井白石自筆のものであることを確認しました。本年3月に軍司氏が当該の書作品を本市に寄贈される意志を示されたことを受け、わたくしはこの6月に本市教育委員会に宛て、「新井白石関係貴重資料調査報告 概要・普及版」として、「新井白石が義兄の軍司正信に贈った書」とする報告書を提出し、軍司氏にも報告書をお送りし、理解を得ました。

今回の寄贈の件は、新井白石がその書作品の漢詩を書いた元禄2年（1689）から実に328年という驚くほど長い年月をへてのものです。まさに千載一遇の幸運が、君津市議会やわたしたち君津市民の熱い思いに結びついたものといえます。ここに軍司信一氏とご家族の

皆様方に心よりの感謝を申し上げると同時に、当該の書作品を本市の指定文書としていただけますよう、心よりお願いを申し上げます。

併せて、平成 23 年 3 月に久留里市場上町の太田健久氏より本市に寄贈された『町代日記』という、別の文献資料についても本市の指定文化財にさせていただきたいことのお願いを申し上げます。

本文献資料の『町代日記』は、平成 20 年 4 月ころに久留里市場上町の太田健久氏宅でわたしが見つけた文書資料で、3 年後の同 23 年 3 月に本市に寄贈されました。本資料は江戸期の末の嘉永 6 年（1853）から昭和 19 年（1944）までの 90 年以上の間にわたる久留里市場の旧上町地区の区有文書の全 43 点のうちにあります。本資料は、「町代」という、今日の自治会長のような役に当たった人の家で記録して保管し、その任期を終えると次に同役を引き受けた家に回していた書類とみられます。そこに記された内容は、嘉永 6 年と文久 2 年（1862）の村歌舞伎の記録、明治 8 年（1875）の久留里の夏の祭礼の記録からなります。本資料には地元久留里の人たちが演じた村歌舞伎のようすが克明に書かれ、房総半島の村歌舞伎としては最古の記録で唯一の具体的な記録でもあります。その具体的な村歌舞伎の演目としては、『伽羅先代萩』『御国歌舞伎』『女戻駕籠』『忠臣蔵九段目』『義経千本桜』など名作の数々が記されています。また、上町の人々が久留里藩の役人（侍）たちを接待した際の料理の献立も克明に書かれ、同地区の全盛のようすをよく伝えています。あれから 150 年以上の年月が経過しているわけですが、今日では本市の大きな心の拠り所のできる貴重な文化遺産となっています。平成 21 年 11 月には、「夢空間 古文書倶楽部」により『町代日記』の影印部と活字化をした文を 1 冊の本にまとめ、書名を『久留里市場の心意気』（全 355 頁）として出版し、市民に広く紹介しています。この貴重な『町代日記』が、このたび軍司氏から寄贈された掛け軸とともに、できるだけ早い機会に、本市の指定文化財としていただけますよう、お願いを申し上げます。

なお、「久留里地区と新井白石の『折たく柴の記』を愛する会」（平成 22 年 5 月～12 月まで存続）、「（仮称）新井白石記念館の設立を応援する会」（平成 23 年 1 月～28 年 12 月まで存続）、「夢空間 古文書倶楽部」（平成 19 年 3 月～現在まで存続）のいずれの団体も、わたくしが代表者を務めています。しかし、現在では前 2 団体は解散しており、すべての事情に通じている人間が代表者を務めたわたくししかいないため、本陳情の提出者をわたくし 1 人の個人名といたしました。この事情をよくご理解いただきたく存じます。

なお、軍司信一氏から寄贈された掛け軸の写真（2 部）、『新井白石が義兄の軍司正信に贈った書』（概要版。A4 判・50 頁分）の報告書 1 冊と漢詩の解説文（2 部）、『町代日記』関連では、その影印部と翻刻文を収載した『久留里市場の心意気』（B5 判・355 頁）1 冊と関連新聞記事の写し（2 部）、『久留里太田家文書・解説と資料目録』1 冊の合計 6 種類 9 点の資料を提出させていただきます。どうか、2 つの資料・文献を本市の指定文化財としていただけますよう、重ねて心よりお願いを申し上げます。